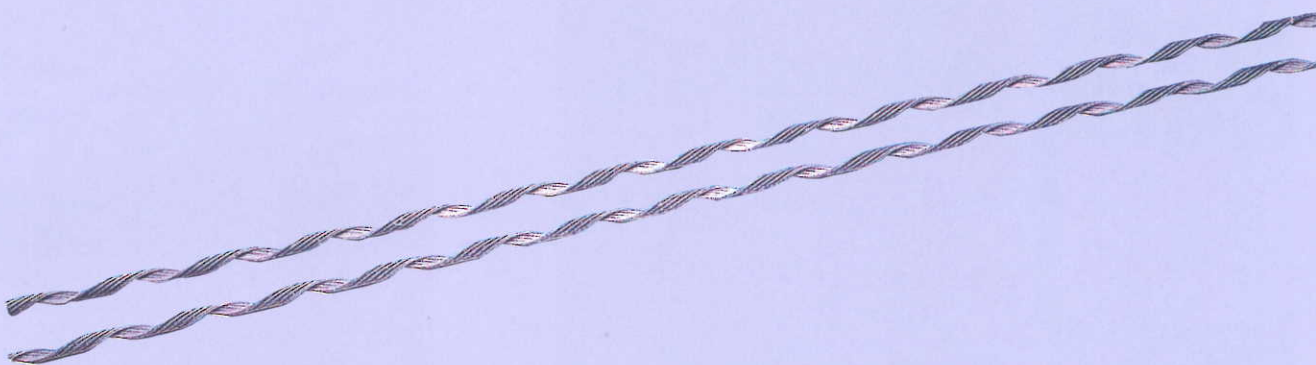
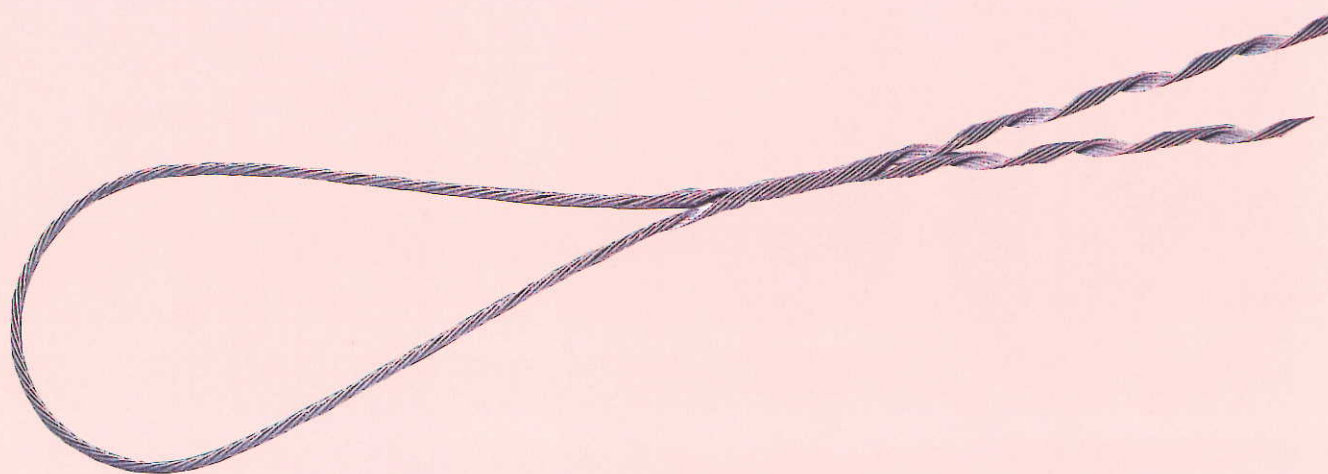
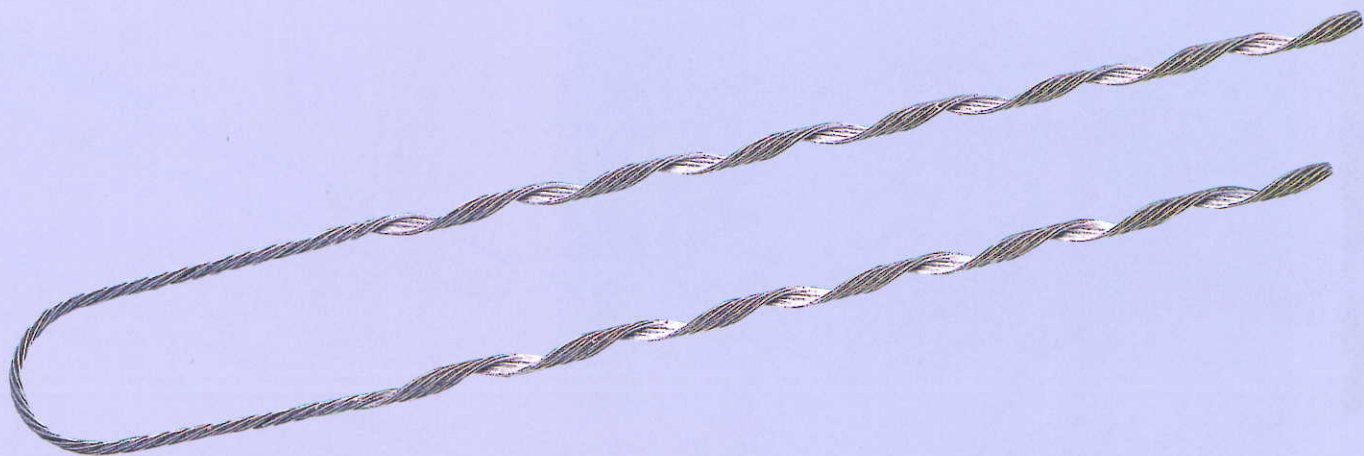
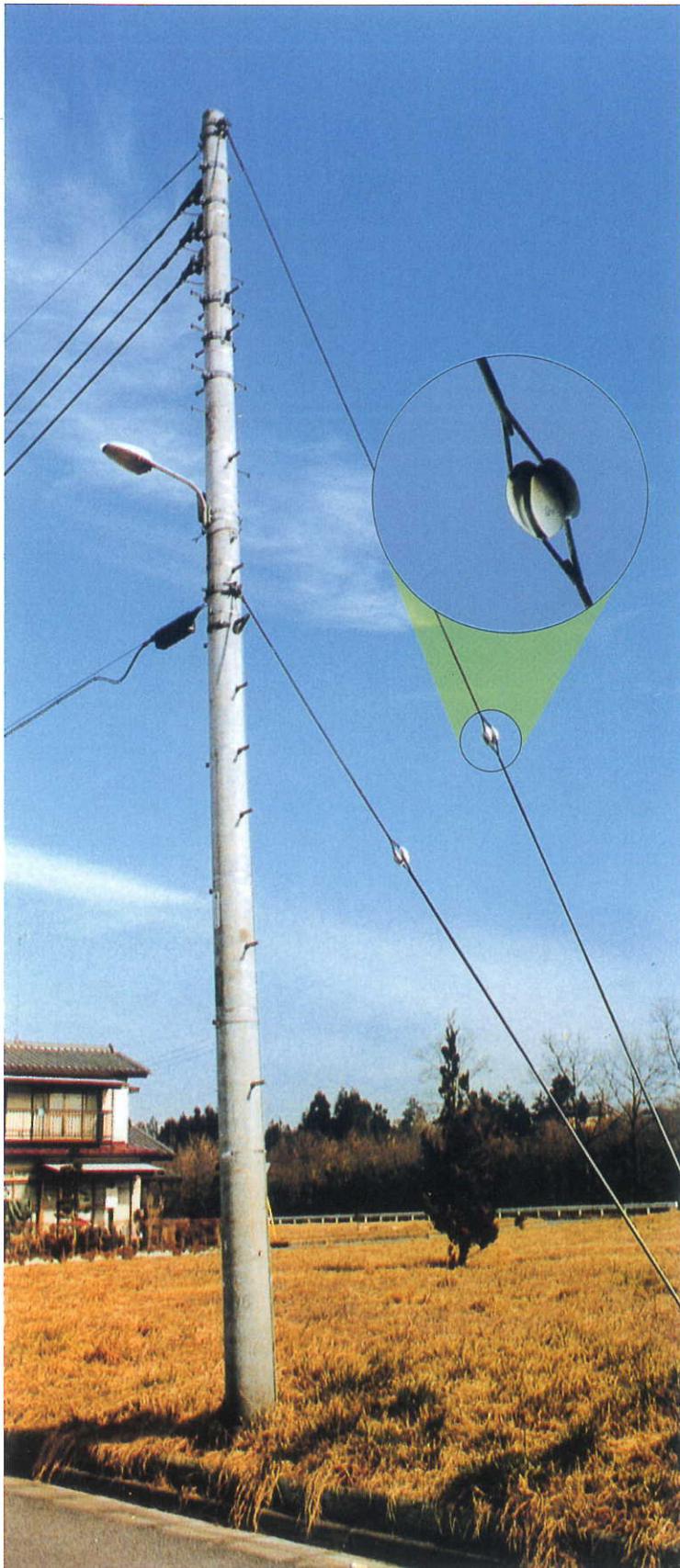


亜鉛めっき鋼より線用

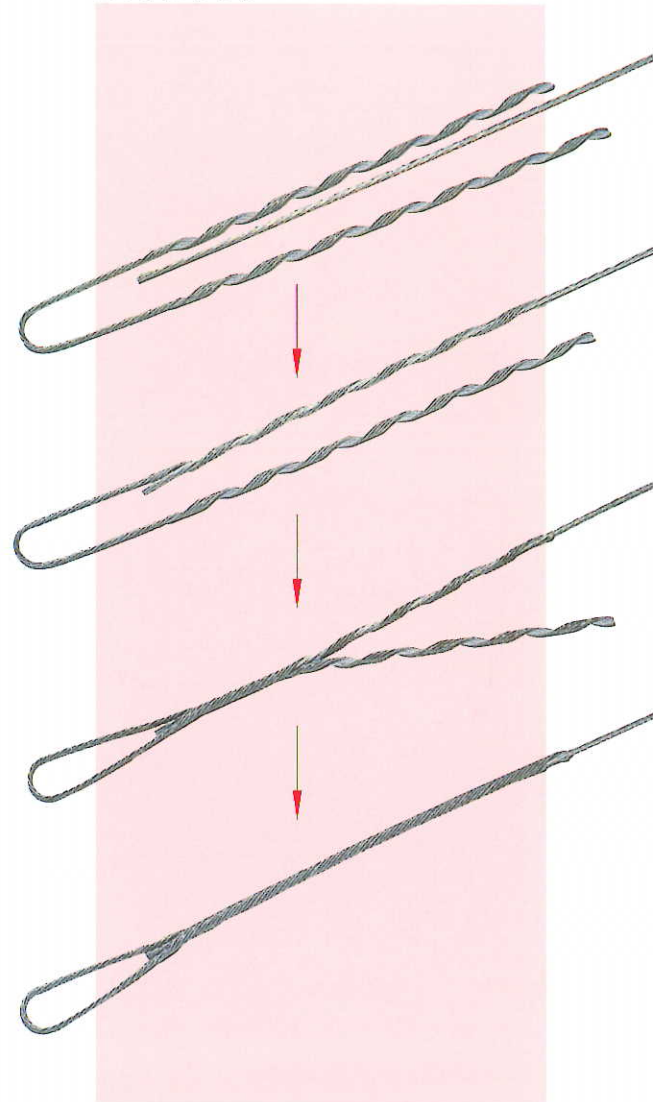
巻付グリップ



巻付グリップ使用実例



嵌合順序



亜鉛めっき鋼より線用巻付グリップ

巻付グリップは支線及びメッセンジャーワイヤの引留及び直線接続に用いる留め具で、従来の鉄線やクリップでの引留作業に比べ緩む事がないので、締め直しの必要がありません。巻付グリップの構造は、スパイラル状に成形した亜鉛めっき鋼線を数本撚り合わせ、素線がばらけない様に、素線相互を接着剤で密着させて、その内面に人造研削材を塗布させたもので、これを鋼より線の上に巻き付けて掌握保持する様になっています。

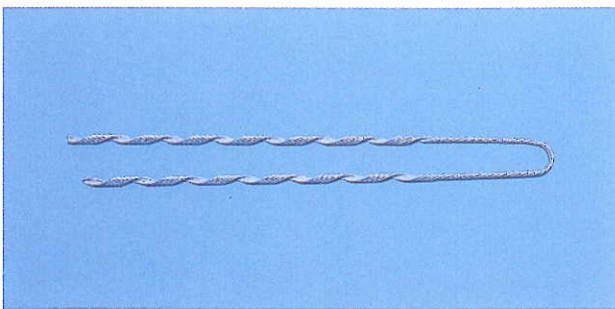
◇特色 引留、直線接続部分の仕上がり状態が外部から確認でき突起部分がなく、一本化している
ので安全で有り美観性が良い。

巻き付け作業は手作業で簡単にしかも迅速に施工出来る為、熟練を必要としません。

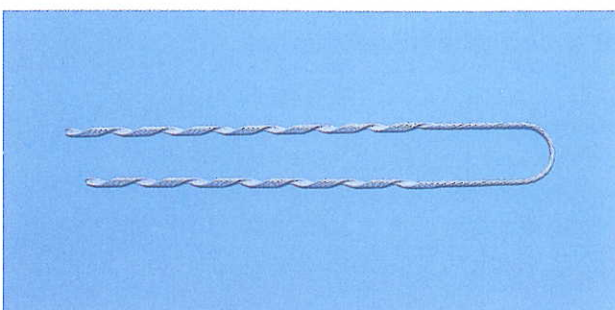
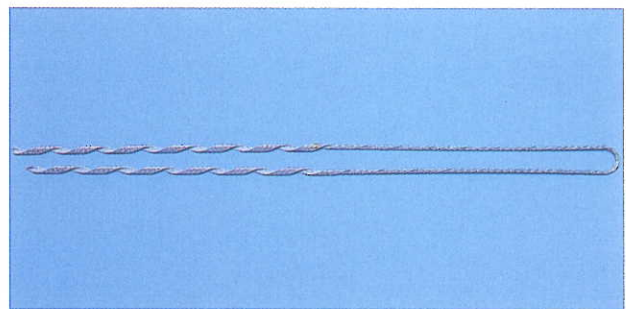
材質は亜鉛めっき鋼より線と同等以上のものを使用し、破断値は鋼より線よりも高く、鋼より線破断値では殆ど滑りを起こさない所以信頼性が高いのです。

従来の引き留め方式と異なりワイヤの折り返しが不要、又、直線接続が出来る為端尺が出ず、材料節約に成ります。

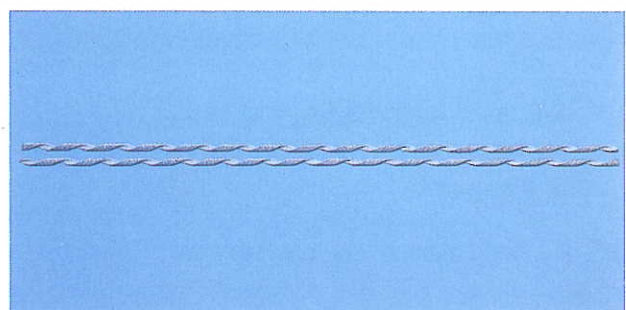
◇種類 巻付グリップは引留める鋼より線の太さと使用箇所によって下記の種類に分ける。



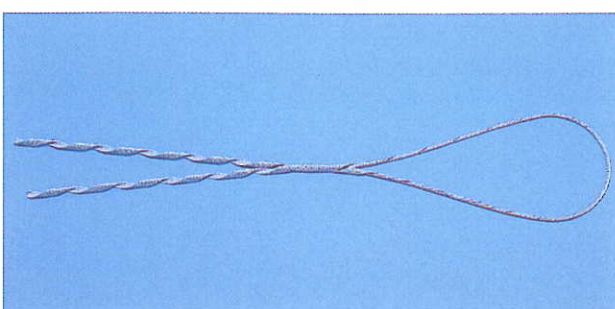
- シンプル用 環部がシンプルの大きさに成形されていて、シンプルを介してポールバンド、支線ロットの引留に使用する。
- 2シンプル用



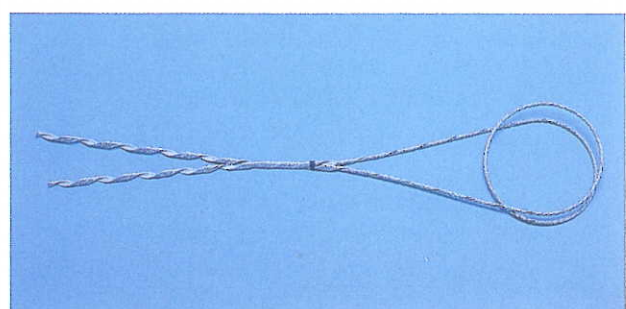
- 玉がいし用 環部が玉碇子の大きさに成形されていて、絶縁碇子を介して引留に使用する。



- 直線接続用 鋼より線の接続用に使用する。



- 木柱用 環部が木柱の大きさに成形されていて木柱の引留に使用する。



- 2号木柱用 支線の角度の浅い場合に、木柱に一回巻きつけて木柱の引留に使用する。

構造および寸法

下記以外の寸法についてはその都度注文に応じます。

種 別 ()内 鋼より線サイズ	構成 (線径×本)	シンプル用			玉ガイシ用			木 柱 用			直 線 用		
		全 長	環部 内径	本 当 り 重 量	全 長	環部 内径	本 当 り 重 量	全 長	環部 内径	本 当 り 重 量	全 長	環部 内径	本 当 り 重 量
5.5mm ² (7/1.0)	1.6×4	350 ⁺⁵⁰ ₋₀	35	50	350 ⁺⁵⁰ ₋₀	65	50	540 ⁺⁵⁰ ₋₀	180	85	390 ⁺⁵⁰ ₋₀		56
8mm ² (7/1.2)	1.6×4	380 ⁺⁵⁰ ₋₀	35	60	380 ⁺⁵⁰ ₋₀	65	60	570 ⁺⁵⁰ ₋₀	180	95	420 ⁺⁵⁰ ₋₀		65
10mm ² (7/1.4)	2.15×4	430 ⁺⁵⁰ ₋₀	35	115	430 ⁺⁵⁰ ₋₀	65	115	620 ⁺⁵⁰ ₋₀	180	180	470 ⁺⁵⁰ ₋₀		125
12mm ² (3/2.3)	2.15×3	570 ⁺⁵⁰ ₋₀	35	115	570 ⁺⁵⁰ ₋₀	65	115	870 ⁺⁵⁰ ₋₀	180	180	650 ⁺⁵⁰ ₋₀		125
14mm ² (7/1.6)	2.15×4	460 ⁺⁵⁰ ₋₀	35	125	460 ⁺⁵⁰ ₋₀	65	125	650 ⁺⁵⁰ ₋₀	180	195	500 ⁺⁵⁰ ₋₀		130
18mm ² (7/1.8)	2.15×4	560 ⁺⁵⁰ ₋₀	35	150	560 ⁺⁵⁰ ₋₀	65	150	750 ⁺⁵⁰ ₋₀	180	210	630 ⁺⁵⁰ ₋₀		175
22mm ² (7/2.0)	2.15×5	570 ⁺⁵⁰ ₋₀	35	195	570 ⁺⁵⁰ ₋₀	65	195	870 ⁺⁵⁰ ₋₀	180	295	660 ⁺⁵⁰ ₋₀		215
30mm ² (7/2.3)	2.48×5	610 ⁺⁵⁰ ₋₀	35	275	610 ⁺⁵⁰ ₋₀	65	275	910 ⁺⁵⁰ ₋₀	180	405	1,000 ⁺⁵⁰ ₋₀		425
38mm ² (7/2.6)	2.80×5	660 ⁺⁵⁰ ₋₀	35	375	660 ⁺⁵⁰ ₋₀	65	375	960 ⁺⁵⁰ ₋₀	180	545	1,100 ⁺⁵⁰ ₋₀		585
45mm ² (7/2.9)	2.48×6	710 ⁺⁵⁰ ₋₀	40	375	710 ⁺⁵⁰ ₋₀	65	375	1,010 ⁺⁵⁰ ₋₀	180	535	1,200 ⁺⁵⁰ ₋₀		615
55mm ² (7/3.2)	2.70×6	750 ⁺⁵⁰ ₋₀	40	465	750 ⁺⁵⁰ ₋₀	65	465	1,050 ⁺⁵⁰ ₋₀	180	655	1,300 ⁺⁵⁰ ₋₀		780
70mm ² (7/3.5)	2.80×6	800 ⁺⁵⁰ ₋₀	40	530	800 ⁺⁵⁰ ₋₀	65	530	1,100 ⁺⁵⁰ ₋₀	180	750	1,400 ⁺⁵⁰ ₋₀		905
90mm ² (7/4.0)	2.80×7	900 ⁺⁵⁰ ₋₀	50	705	900 ⁺⁵⁰ ₋₀	65	705	1,200 ⁺⁵⁰ ₋₀	180	960	1,500 ⁺⁵⁰ ₋₀		1,105
135mm ² (7/5.0)	3.45×7	1,000 ⁺⁵⁰ ₋₀	80	1,200	1,000 ⁺⁵⁰ ₋₀	80	1,200						

掌握力試験

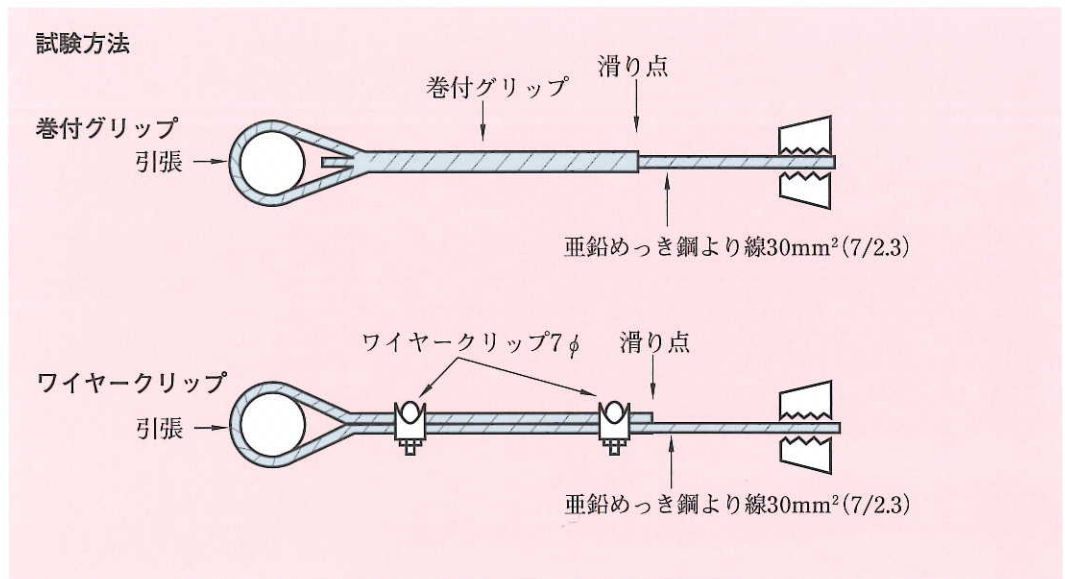
巻付グリップを亜鉛めっき鋼より線第一種又はこれと同等以上の撚線の端末部に取付け、規定荷重を加えて3分間放置した後の滑り量規準は下表の通りです。

種 別	鋼 よ り 線	引張荷重(KN)	引 張 時 間	滑 り
5.5mm ²	7/1.0	6.19	3 分	3mm以下
8mm ²	7/1.2	8.90	3 分	3mm以下
10mm ²	7/1.4	12.2	3 分	3mm以下
12mm ²	3/2.3	14.1	3 分	3mm以下
14mm ²	7/1.6	15.9	3 分	3mm以下
18mm ²	7/1.8	20.1	3 分	3mm以下
22mm ²	7/2.0	24.8	3 分	3mm以下
30mm ²	7/2.3	32.8	3 分	3mm以下
38mm ²	7/2.6	42.0	3 分	3mm以下
45mm ²	7/2.9	52.2	3 分	4mm以下
55mm ²	7/3.2	63.7	3 分	4mm以下
70mm ²	7/3.5	75.8	3 分	5mm以下
90mm ²	7/4.0	99.1	3 分	5mm以下
110mm ²	7/4.5	126.0	3 分	5mm以下
135mm ²	7/5.0	155.0	3 分	5mm以下

巻付グリップとワイヤークリップの比較

巻付グリップと従来使用されているワイヤークリップとの掌握力の試験をした結果は下記の通りの結果が出ています。

試料：巻付グリップ シンプル用30mm²(7/2.3)
 ワイヤークリップ 7φ
 亜鉛めっき鋼より線 30mm²(7/2.3) (JIS G3537, 1種A級)



滑り量試験結果						
亜鉛めっき鋼より線規格		試験荷重	巻付グリップ (30mm ²)	ワイヤークリップ		
構成	引張荷重			2ヶ所締付	3ヶ所締付	4ヶ所締付
(構成/線径)	(KN)	(KN)	(mm)	(mm)	(mm)	(mm)
30mm ² (7/2.3)	32.8	3.33	0	0	0	0
		6.57	0	1.0	0	0
		9.81	0	6.0	1.0	0
		13.1	0	滑り始め	5.0	1.0
		16.4	0		滑り始め	4.0
		19.6	0			9.0
		22.9	0			滑り始め
		26.3	0			
		29.5	0			
		32.8	0			
42.4		鋼より線切断				

(注) ワイヤークリップ締付トルク2.94KN・cm ワイヤークリップの間隔100mm